



一日一日を明るく過ごす

西庶路在住の佐々木弘子さん(82)

は平成26年に介護保険の申請をし、要支援2の判定を受けました。その1年後、足腰が弱くなったこともあり、介護認定の更新時に要介護2の判定を受けました。それから今日まで要介護2の状態を維持しています。「台所に立って料理をするといっても足が弱くなって立っているのも大変だし、野菜を刻むといっても手が震えてできなくなつて、それでニンジンを落として足の骨を折つたの。それから包丁を使うことが怖くてやらなくなつた」

佐々木さんは現在、週2回のホームヘルパーと週2回のデイサービス、週1回の訪問看護を利用しています。介護サービスがなければ、今の心身の状態を維持することはできなかつたと話します。

「清和園のデイサービスに通うようになってから今年で6年目。最近をよく転ぶようになってきたけれど、介護サービスがなければ、今の状態は保てなかつたよ。私ひとりじゃ何もできないもの」

佐々木さんは、これまでに何度も気持ちが落ち込むことがありましたが、今は充実した生活を送っています。



佐々木弘子さんと佐々木源二さん(85歳)は2人暮らし。源二さんも昨年から要介護認定を受け、現在は2人で清和園のデイサービスに通っています。

「ケアマネジャーさんも良い人だし、ヘルパーさんも良い人、訪問看護の方も良い人で、うれしくて、うれしくて。最近は音楽やラジオを聴きたくなって、CDを買ってきて美空ひばりの歌を聴いてから寝ています。本当に気持ちが明るくなりました。ラジオを聴いていたら『朝が来ない夜は無い』って言っていて、本当だなんて。それで難しく考えるのをやめて、一日一日を明るく過ごそうと思うようにしたの。そしたらご飯を食べるのもうれしくなつた。夜にCDを聴いたら、今日も生きたなと思つてね。ヘルパーさんや看護師さんにお話を聞いてもらうだけでも気持ちがおかげで、一日を明るく過ごすことができます」